

大切な人ががんになったら どうしたらいいの？

まわりの人の支えが大切

がんになると、いろいろな不安や痛みを感じる場合があります。また、患者さん自身だけでなく、その家族も同じように不安をかかえることがあります。がんになっても自分らしく生活するために、多くの支えが必要です。今、がんを経験した人たちによる支え合いの活動(ピアサポート)が広がっています。

もしも、自分の身近な人ががんになった場合、その人やその家族にどのように接したらよいか、どんなことができるかなど、考えてみましょう。

★がん患者さんの気持ちや家族の気持ちを知るために次のマンガを読みましょう。



本人の体験談

ほんにん たいけんたん

小学2年生の3月から3年生の7月まで学校を休み、抗がん剤治療を3回

放射線治療を行って学校に戻ることができました

中学3年で学校に戻ったとき副作用で髪が抜けたまま、左側の麻痺がひどくなったので、足に装具をつけていました

ただ、周りの友達には誰も「面白かったり」「いじったり」することはありませんでした

小学2年生のある日、ピアノの練習で左手の音がしつかり出ないことに気がつきました

中学1年の終わりころ、まひがひどくなってきたので検査したら、また頭の中にがんができていたことがわかりました

この時、初めてぼくは自分の病気が「がん」であることを知りました

つらい時もありましたが、毎日明るく笑って過ごしていたら、たくさんのお出合いがありました

がんになった子ども達や、家族ががんになった子ども達が集まって、不安や悩みを話せる場所をつくる活動を始めました

大きな病院での検査の結果、脳腫瘍という頭の中にがんができる病気であることがわかりました

自分ががんだということは知らされませんでした

中学2年生の1年間学校を休み、前よりも強い抗がん剤治療を5回と放射線治療を受けました

春からは大学生になります

自分の病気の経験を活かして勉強し、病気で苦しむ子や家族のためにできる活動を広げていきたいと思っています

「がん」について、わかったことを書いてみよう。

自分やおうちの人々の健康のためにできることも書いてみよう。

やってみよう!

- 「がんについて分かったこと」を友達と話し合ってみよう
- 「健康のためにできること」をおうちの人に伝えよう
- おうちの人々ががん検診を受けたことがあるか聞いてみよう

できたらチェックしよう!

